

ファミリー

中日新聞 2007年11月21日

体験話し、日ごろの思い共感



本人交流会で体験談や思いを話す参加者たち＝鹿児島市の市民文化センターで

交流会は、認知症の人と家族の会、若年認知症家族会・彩星の会、認知症介護研究・研修東京センターがつくる本人ネットワーク支援委員会の主催。昨年十月に京都市で開かれた「本人会議」では、会議そのものは非公開。後で代表者が会見し、出席者の思いを社会に訴えていた。

鹿児島市の市民文化ホールの一室では、アルツハイマー病で認知症になった五十代と六十代の男女七人がテーブルを囲んでいた。すぐ横には、報道関係者用の席も。事前に報道関係者への公開は出席者に知らされていたが、念のため本人ネットワーク支援委員会の松

病気でも社会貢献したい

本一生懸命から、公開することが許された。出席者は7人。七人のうち四人が、顔の撮影も名前の公開も大丈夫と答え、交流会は始まった。

「父も母も元気なのに、一人置いて行かれてはいる感じ。これがしんどい」と訴える六十代の男性。「頭の中がぼんやりして、話そうとすると元に戻らない。でも、三十分くらいでは「いい」と言ってくれる。子のいいとまでは、パソコンはちゃんと使えるが、突発性を考えていたのが分からなくなることがある。その辺がつかない」と続けた。

鹿児島市で認知症の本人交流会が公開

全国から集まった認知症の人たちが、それぞれの思いを語る「本人交流会」が先日、鹿児島市で開かれ、初めて報道関係者に公開された。通

常は非公開だが、認知症に対する誤解を解き、本人たちにとつての交流の場の必要性を知ってもらおうと公開に踏み切ったという。(佐橋大)

誤解とき偏見なくなれば

交流会終了後、松本委員長は「公開することで、出席者が硬くなるのでは心配したが、みなさんな生々生き話話してほっとした。本人同士で話すと、日ごろの思いが共感できるという喜びがあるようにです。今回の交流会を参考に、本人同士の交流が各地で広がってほしい」と語りかけた。

「周囲の心配が重荷になることも。ある男性は「あれこれ聞かされると、かちんと来ますよ」。東京都加藤英子さんは「アルツハイマーのことを考えるのがつらい」と語りかけた。

最後に社会への提言も。佐藤さんは「ものを売る能力は落ちても、感情は残っている。アルツハイマー病を何人もかかるとなると、偏見はやめてほしい」と訴える。本人が答えられるよう、あまり早口で話さないとか、できないことを無理にやらせないことなど、目するとか、まじけないうざわいざをしないことと語りかけた。

人に負けるのが嫌だから」と胸の内を明かした。大分県の足立昭一さんは「は薬にいられたらおどろけた」というが、今ではおどろかなくなった。食べた物を妻への感謝の言葉を毎日書き留め、妻に提出しているのだという。複数の出席者の口から出たのは、病気になるっても、それまで通りに接し、手助けしてくれる周囲の人たちへの感謝と、社会貢献したいという思いだ。

足立さんは「同じように悩んでいる人を見かけたい」と目を輝かせた。

周囲の心配が重荷になることも。ある男性は「あれこれ聞かされると、かちんと来ますよ」。東京都加藤英子さんは「アルツハイマーのことを考えるのがつらい」と語りかけた。

南日本新聞 2007年12月28日

語り合う認知症患者

認知症の人たちが自らの思いや希望などを公の場で語り始めている。鹿児島市であった認知症の人と家族の会（本部・京都市）の全国研究会では、認知症の人同士の交流会も同時開催された。急速な高齢化が進む中、認知症の人をきめ、だれもが安心して暮らせる仕組みやまちづくりは緊急の課題でもある。当事者たちが語る言葉の中にそのヒントもありそうだ。

鹿児島市

郡で初めて開催され、今回が二回目。〇五年に国が始めた「認知症を知り地場をつくるキャンペーン」の一環で「本人ネットワーク支援委員会」が主催している。お互いの経験を共有、また認知症の人同士が連携を深めていくことを目的としている。

交流会の進行を務めた

全国集会で家族離れ交流

「語るにほたぐさり合った本人交流会。七たい」と要領した。六年前に診断を受けた東京の加藤英貴子さん（66）は「今を大切に」がモットー。四十歳のとき、大学でスペイン語を学習した経験もある勉強家でもある。病歴については「悔しくて人に負けた気がする。こんなこともできたのにと考えると、負けあかと思つ」と話した。大分の足立昭一さん（58）は市役所に勤めていた元地方公務員。昨年九月に診断を受けた。結婚式の司会を十八回手掛けたこともあると雄弁。現在、妻とともに脳のトレーニングや体力づくりに励んでいる。足立さんは「同じ病気などで悩んでいる人を見つと伺かしたくなる。勇気づけることもできると思つ」と社会貢献への意欲を示した。

「不便あるが不幸ではない」
「さりげない配慮もお願い」

本人同士ならではの
全国各県から訪れた七
人の認知症の人たちが語



鹿児島市市民文化ホール
II 鹿児島市市民文化ホール
II 鹿児島市市民文化ホール

鹿児島市市民文化ホール
II 鹿児島市市民文化ホール
II 鹿児島市市民文化ホール

鹿児島市市民文化ホール
II 鹿児島市市民文化ホール
II 鹿児島市市民文化ホール